

複数のパソコンで同時にインターネットを利用するには (MUX機能)

本商品のRS-232Cポートとワイヤレスパソコンアダプタ等に接続された2台のパソコンから同時に同じプロバイダのアクセスポイントに接続してインターネットを利用することができます。

MUX機能とは

■ MUX機能を利用すると...

MUX機能を利用すると、Bチャンネルの使用を1本のみで2台で同時にインターネットを利用することができます。

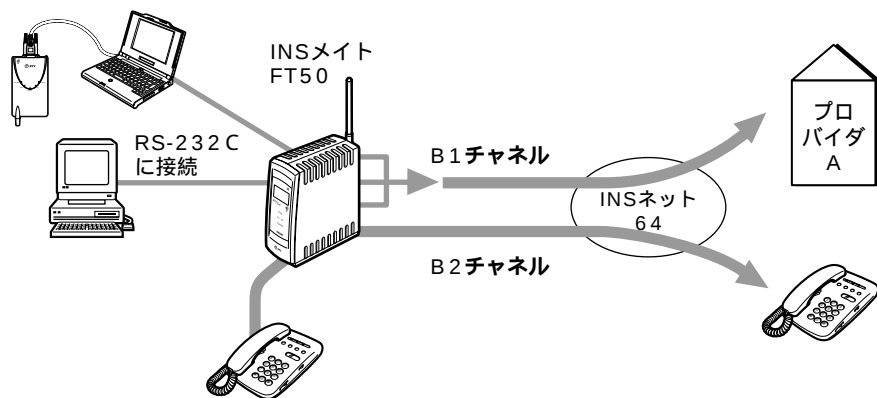
- 1本のBチャンネルが空いているので、アナログポートに接続された電話機やファクスを使用することができます。
- ホームページの閲覧などのデータ量が多い場合は、2本のBチャンネルを使用するのに比べて通信料金がかりません。

■ MUX機能の利用例

● 1本のBチャンネルを2台のパソコンで使う場合

1本のBチャンネルを使ってプロバイダのアクセスポイントに接続し、本商品のRS-232Cポートまたはワイヤレスパソコンアダプタ等に接続された2台のパソコンからインターネットを利用します。

アナログポートの電話機やファクスも利用できます。



MUX機能でインターネットに接続する

MUX機能を利用するには、次の手順が必要です。

発信時にMUX機能を指定する

- インターネットに接続する電話番号を同じにします。
- MUX機能設定を「する」に設定します。(➡P145)

お使いのRS-232Cポートおよびワイヤレスパソコンアダプタ等に接続された2台のパソコンのTCP/IP設定の「IPヘッダ圧縮を使う」のチェックボックスを外します。



お願い

- MUX通信を行うときは、1台目のパソコンの接続の認証が完了し正しく接続されたことを確認してから2台目のパソコンで発信を行ってください。最初の認証が完了する前に発信すると正しく接続することができません。



お知らせ

- 2台目のパソコンの接続先（アクセスポイント）の番号が、1台目の番号と異なっていたり、MUX機能設定「なし」設定時には、MUX通信になりません。
- 家族会員などのように、MUX機能で同じアクセスポイントに接続するとき異なるユーザIDを使いたい場合、MUX接続時の認証設定を「認証しない」に設定してください。(➡P145)

■ MUX機能利用上の制限

- S/T端子にバス配線で接続されているINSネット64用通信機器に接続されているパソコンからは、MUX機能を利用できません。
- MUX機能は、ルータなどで用いられているIPアドレスのポート番号変換機能を使用するため、一般にルータで使用できないネットワークゲームなどのアプリケーションは、動作しない場合があります。
- PPP接続時の認証はPAPのみサポートされます。
- PPP接続時、以下の機能はサポートされません。
VJC、MS-CBCP、MLPPP（クライアントが実装している場合）、CCP
- 128KマルチリンクPPP設定時は、ご利用できません。
- MUX機能ができるのは、FT50のRS-232Cポートと無線ポートに接続されたパソコンのみであり、無線ポートに接続されたパソコン2台からはできません。
- MUX機能を使用するときは、無線ポートをPIAFS/同期PPP変換モードにしてください。

タイマー機能とは、あらかじめ登録されている時間になると自動的に設定した内容を有効にする機能です。

タイマー機能は、設定ユーティリティのタイマー設定（☞P167）にて設定してください。

■ タイマー機能で行える機能

着信転送、電話中継、優先着信、接続機器設定、128 kbpsマルチリンクPPP通信、無通信監視タイマー、強制切断タイマー、コールバック

使用例

ここでは、タイマー設定で疑似着信転送設定を行うときを例として説明します。



1 タイマー時間を設定するとき、[使用する] をチェックする。

開始時間、終了時間、各チェックボックスが有効となります。

2 開始時刻、終了時刻の設定を行う。

曜日：毎日、月～日

時間：0:00～23:50

3 [着信転送] をクリックする。

[着信転送先設定] ボタンが有効となります。

(次ページへ続く)

4 [着信転送先設定] ボタンをクリックする。

着信転送画面が表示されます。

5 着信転送を [疑似着信転送] に設定し、着信転送元、および着信転送先の設定を行う。

タイマー開始時間になると、着信転送設定が疑似着信転送となり、システム共通設定で行う着信転送設定が無効となります。

タイマー終了時間になると、システム共通設定で行う着信転送設定が有効となります。

設定ユーティリティを起動 / 終了する

INSメイトFT50またはワイヤレスパソコンアダプタRU2のどちらに接続したパソコンからでも、設定ユーティリティを使ってINSメイトFT50の設定を行うことができます。設定ユーティリティを起動するときは、INSメイトFT50またはワイヤレスパソコンアダプタRU2とパソコンを正しく接続してください。



お知らせ

- ワイヤレスパソコンアダプタRU2に接続されたパソコンからINSメイトFT50の設定を行う場合は、INSメイトFT50に接続されたパソコンで設定ユーティリティをご利用になっていないことをご確認ください。同時に2台のパソコンで設定ユーティリティを起動した場合は正常に動作しません。
- ワイヤレスパソコンアダプタRU2に接続されたパソコンからINSメイトFT50の設定を行う場合は、無通信監視タイマー（←P206）を超えた設定操作の中断をしないでください。通信エラーとなることがあります。

Windows® 95 / Windows® 98 / Windows® Me / Windows® 2000 / Windows NT® 4.0をご利用の場合

ワイヤレスパソコンアダプタRU2から起動する場合を例に説明します。

- 1** INSメイトFT50およびワイヤレスパソコンアダプタRU2の電源を入れる。
- 2** [スタート]をクリックし、[プログラム] → [INSメイトFT50設定ユーティリティ]をクリックする。

設定ユーティリティが起動します。

3 起動する設定ボタンをクリックする。

- TELポートの簡単設定 (☛P131)
INSメイトFT50をお使いになるための基本的な設定を順番に行います。
はじめて設定を行う場合は、こちらをクリックしてください。
- INSメイトFT50の詳細設定 (☛P137)
INSメイトFT50の詳細な設定を行います。
設定内容を変更したい場合は、こちらをクリックしてください。

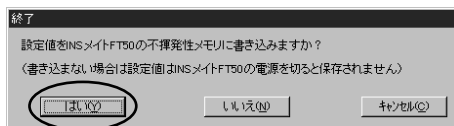


4 設定が終了したら、メインメニューの [終了(E)] をクリックする。

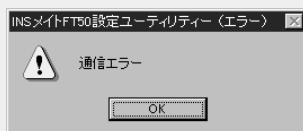


(次ページへ続く)

5 [はい(Y)] をクリックする。



- 設定ユーティリティが起動しないときは
RS-232Cケーブルが正しく接続されていないときや、INSメイトFT50
を接続したポートを認識できないときなどは、次の画面が表示されます。



- パソコンとINSメイトFT50が正しく接続されているか確認します。
- [OK] をクリックすると、通信ポートを選択する画面が表示されます。



ワンポイント



- INSメイトFT50を接続したポートを選択し、[OK]をクリックします。
- INSメイトFT50が選択したポートに正しく接続されていると、メインメニュー画面が表示されます。



お知らせ

- 設定ユーティリティで設定中に、有効範囲外の数値などを入力した場合、設定内容保存時にエラーメッセージが表示されます。

Mac OSをご利用の場合

1 INSメイトFT50の電源を入れる。

2 [FT50設定ユーティリティ] フォルダをダブルクリックする。

3 [FT50設定ユーティリティ] アイコンをダブルクリックする。
設定ユーティリティが起動します。

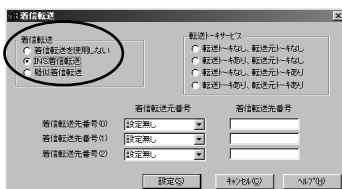
4 設定したい項目のボタンをクリックする。

起動後の操作は、Windows® 95 / Windows® 98 / Windows® Me / Windows® 2000 / Windows NT® 4.0の場合と同じです。(➡P126)

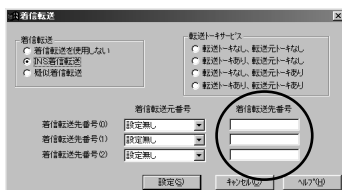
画面の見かた

画面の項目の左に○や●があるときは、●が現在の設定値です。変更するときは○をクリックして●にします。

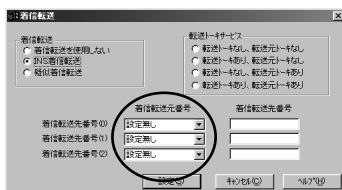
□が画面の項目の左にあるときは、クリックするとチェックマーク☑になります。チェックマークが付くと選択されたことになります。



画面の入力欄があり、数値やアドレスを入力するときは、入力欄をクリックします。カーソルが表示されて数値やアドレスが入力できるようになります。



画面にアクションバー「設定無し」などがあるときは、表示された数値や項目が現在設定されています。画面の▼をクリックするとプルダウンリストが表示されますので、選択する値や項目をクリックします。



- 設定項目を囲む四角い枠[]およびアドレスなどの入力欄のカーソルは、パソコンの [Tab] キーで移動できます。

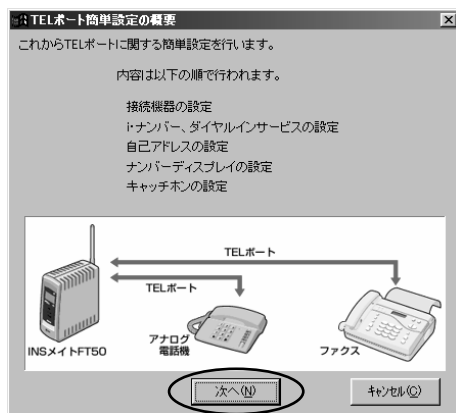
アナログポートを使えるようにするには

設定ユーティリティの簡単設定では、INSメイトFT50でアナログポートを使うための基本的な設定を行うことができます。

- 1 メインメニューで [TELポートの簡単設定] をクリックする。



- 2 画面の説明を読んだら、[次へ(N)] をクリックする。



(次ページへ続く)

アナログポートを使えるようにするには

- 3** TEL1ポート、TEL2ポートに接続する機器を選択し、[次へ(N)] をクリックする。何も接続しない場合は [何も接続しない] を選択する。



- 4** i・ナンバーまたはダイヤルインサービスをご利用の場合はどちらかを選択し [次へ(N)] をクリックする。
 どちらのサービスも利用していない場合は [iナンバー、ダイヤルインサービスどちらも利用していない] を選択する。



5 画面の指示に従って、電話番号を設定し、[次へ(N)]をクリックする。

- ・ i・ナンバーを利用する場合
- ・ i・ナンバー情報に電話番号を入力します。

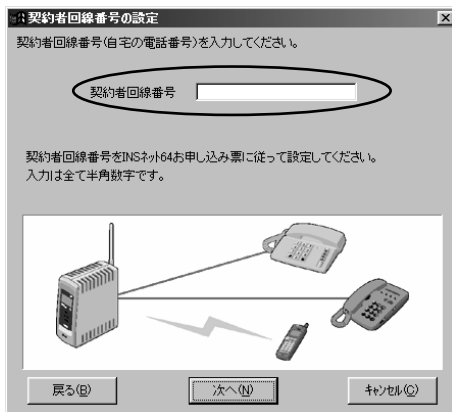
- ・ ダイヤルインサービスを利用する場合
- ・ 契約者回線番号とダイヤルイン番号を入力します。

(次ページへ続く)

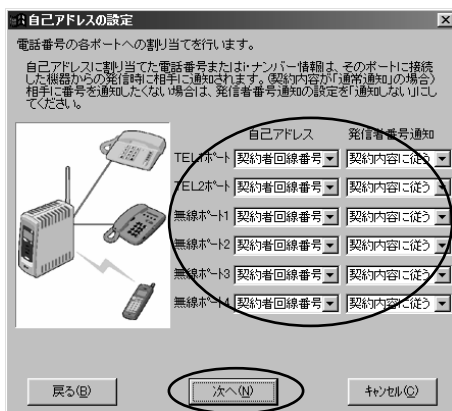
アナログポートを使えるようにするには

- どちらのサービスも利用しない場合

契約者回線番号（自宅の電話番号）を入力します。



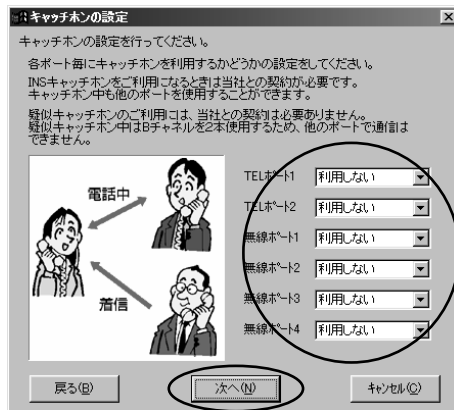
- 6** i・ナンバーまたはダイヤルインサービスをご利用の場合は、発信時に相手先に通知される電話番号を各ポートに割り当て [次へ(N)] をクリックする。
 どちらのサービスも利用していない場合は、手順7へ進む。



- 7 ナンバー・ディスプレイを使用するかどうかを選択し [次へ(N)] をクリックする。



- 8 キャッチホンを使用するかどうかを選択し [次へ(N)] をクリックする。



(次ページへ続く)

アナログポートを使えるようにするには

9 設定内容を確認し [終了(E)] をクリックする。



10 メインメニューの [終了(E)] をクリックする。

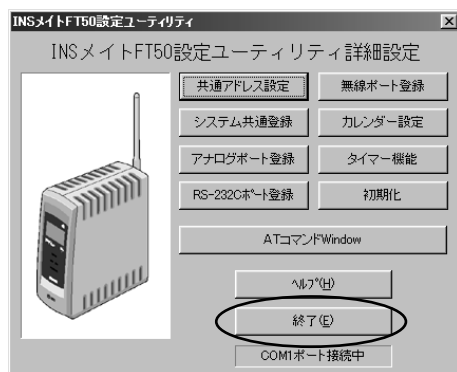


######

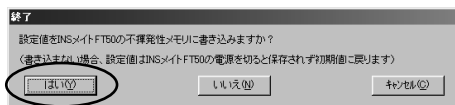
- ・アナログポート登録 (☞P150)
TEL1 / 2ポートの設定を行います。
- ・タイマー機能 (☞P167)
着信転送、優先着信、電話中継、接続機器設定、128 kbpsマルチリンクPPP通信、無通信監視タイマー、強制切断タイマー、コールバックのタイマーを設定します。
- ・RS-232Cポート登録 (☞P155)
INSメイトFT50のRS-232Cポートの設定を行います。
- ・無線ポート登録 (☞P163)
ワイヤレスパソコンアダプタRU2やPHS対応電話機などを利用するための無線ポートの設定を行います。
- ・カレンダー設定 (☞P167)
INSメイトFT50の日時を設定します。
- ・初期化 (☞P177)
INSメイトFT50の各種設定値をお買い求め時の設定に戻します。

4 設定が終了したら [登録(S)] をクリックする。

5 [終了(E)] をクリックする。



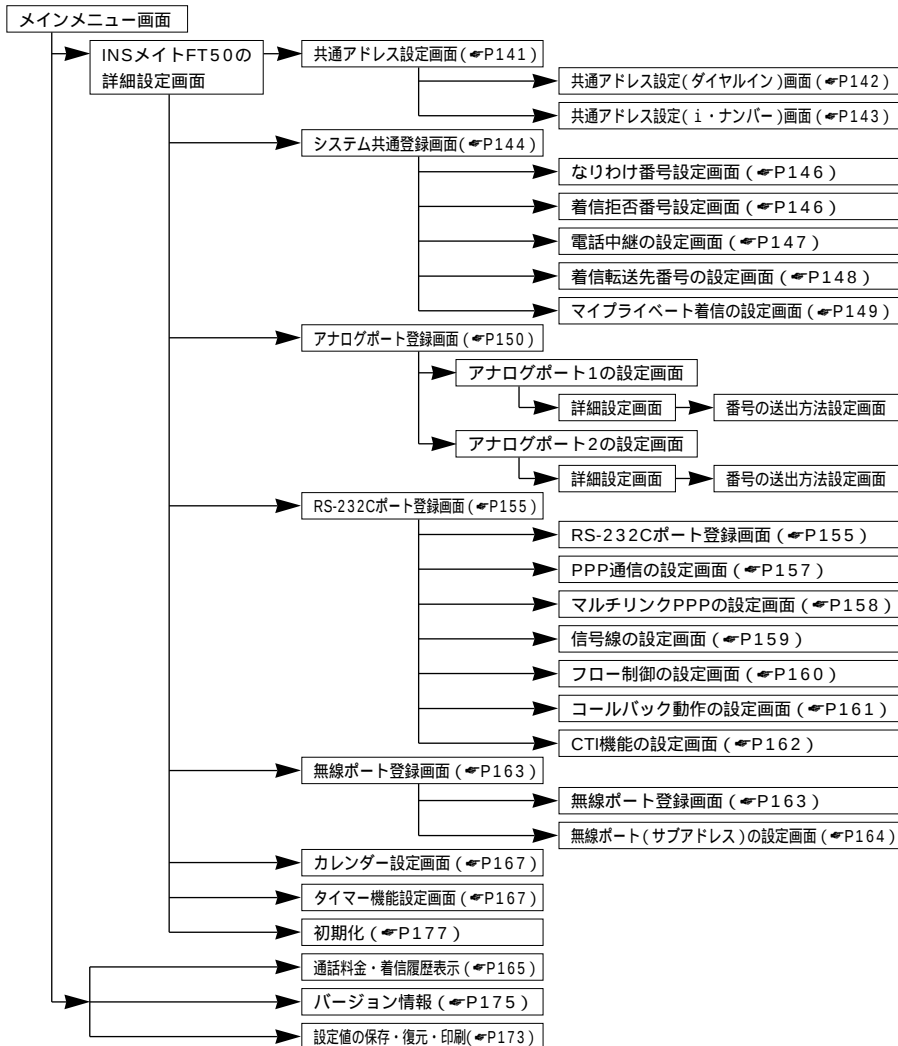
6 [はい(Y)] をクリックする。



変更した内容が設定され、INSメイトFT500に保存されます（AT&Wコマンドの実行）。INSメイトFT500の電源を入れ直しても設定は変更前に戻りません。メインメニュー画面に戻ります。
[いいえ(N)] をクリックすると、変更した内容は設定されますが、電源を入れ直したときは設定が元に戻ります。
[キャンセル(C)] をクリックすると、1つ前の画面に戻ります。

詳細設定の流れ

INSメイトFT50の設定ユーティリティの詳細設定画面は、次のような関係になっています。



お知らせ

- 設定ユーティリティの設定操作はWindows® 95、Windows® 98、Windows® Me、Windows® 2000、Windows NT® 4.0またはMacintoshともほぼ同じです。以降、Windows® 98の画面を例に説明します。

着信番号を設定するには (共通アドレス設定)

契約している電話番号を設定し、着信があったとき番号ごとにどのポートを呼び出すかを設定します。ご契約されているサービス（ダイヤルイン、i・ナンバー）によって、設定する内容が異なります。

共通アドレス設定画面

INSメイトFT50の詳細設定画面で[共通アドレス設定]をクリックすると表示されます。

回線契約設定

回線契約設定 ☒ トナリバーを使用しない ☐ トナリバーを使用する

☒ クロール着信を行う

	着信するポート			発信するポート													
	アナログ	RS-232C	無線	アナログ			RS-232C			無線							
	1	2	71	1	2	71	3	4	5	6	72	73	76	77			
契約者回線番号	☒	☒	☒	全て													
ダイヤルイン番号1	☒	☒	☒	全て													
ダイヤルイン番号2	☒	☒	☒	全て													
ダイヤルイン番号3	☒	☒	☒	全て													
ダイヤルイン番号4	☒	☒	☒	全て													
ダイヤルイン番号5	☒	☒	☒	全て													
ダイヤルイン番号6	☒	☒	☒	全て													
ダイヤルイン番号7	☒	☒	☒	全て													

登録 キャンセル ヘルプ

[回線契約設定]

ご契約のサービスを選択します。

- ・サービスをご契約でない場合

「i・ナンバーを使用しない」を選択します。

共通アドレス設定（ダイヤルイン）画面が表示されます。（P142）

- ・ダイヤルインをご契約の場合

「i・ナンバーを使用しない」を選択します。

共通アドレス設定（ダイヤルイン）画面が表示されます。（P142）

- ・i・ナンバーをご契約の場合

「i・ナンバーを使用する」を選択します。

共通アドレス設定（i・ナンバー）画面が表示されます。（P143）

着信番号を設定するには (共通アドレス設定)

追加番号を登録する(共通アドレス設定(ダイヤルイン)画面)

[グローバル着信を行う]

グローバル着信の利用を選択します。

初期値：グローバル着信を行う

[契約者回線番号][ダイヤルイン番号1～7]

ご契約の番号をすべて入力します。

[着信するポート]

それぞれの番号に着信があったときに呼び出すポートを選択します。

初期値：アナログポート1/2着信する、RS-232Cポート着信する、無線ポート全て着信する

[発信するポート]

それぞれの番号で発信するポートを選択します。

初期値：契約者回線番号

i・ナンバーを登録する（共通アドレス設定（i・ナンバー）画面）

[i・ナンバー情報1～3]

ご契約の i・ナンバーの電話番号をすべて入力します。

[着信するポート]

それぞれの番号に着信があったときに呼び出すポートを選択します。

初期値： i・ナンバー情報1 アナログポート1着信する、RS-232Cポート着信する、無線ポート全て着信する

i・ナンバー情報2 アナログポート2着信する、RS-232Cポート着信する、無線ポート全て着信する

i・ナンバー情報3 アナログポート1/2着信しない、RS-232Cポート着信しない、無線ポート着信しない

[発信するポート]

それぞれの番号で発信するポートを選択します。

初期値： i・ナンバー情報1 アナログポート1、RS-232Cポート、無線ポートすべて

i・ナンバー情報2 アナログポート2

i・ナンバー情報3 なし



ワンポイント

- 無線ポートに接続したデータ通信機器にデータ着信する場合は、「着信するポート」の設定でRS-232Cポートのチェックを外し、着信させるデータ通信機器の番号を選択してください。



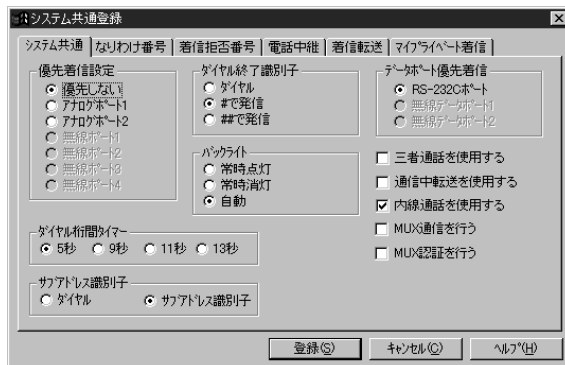
お知らせ

- 電話番号を正しく設定しないと、相手に正しい電話番号が伝わらない場合や、INSネット64の各種サービスが利用できない場合があります。

システム共通の機能を設定します。

システム共通登録画面

FT50の詳細設定画面で[システム共通登録]をクリックすると表示されます。



[優先着信設定]

優先して着信させるポートを選択します。

初期値：優先しない

[ダイヤル終了識別子]

Ⓜ ボタンを含む電話番号にかけるときなどは、「ダイヤル」または「#で発信」に設定します。

初期値：#で発信

[バックライト]

液晶ディスプレイのバックライトのつきかたを設定します。

初期値：自動

[データポート優先着信]

優先して着信させるデータポートを選択します。

初期値：RS-232Cポート

[三者通話を使用する]

フレックスホンの三者通話を利用するかどうかを選択します。

初期値：使用しない

[通信中転送を使用する]

フレックスホンの通信中転送を利用するかどうかを選択します。

初期値：使用しない

[MUX通信を行う]

MUX通信を利用するかどうかを選択します。

初期値：MUX通信を行わない

[MUX認証を行う]

MUX接続時の認証を行うかどうかを選択します。

初期値：MUX認証を行わない

[内線通話を使用する]

内線通話、内線転送を行えるようにするかどうかを選択します。

初期値：使用する

[ダイヤル桁間タイマー]

ダイヤルボタンを押してから発信するまでの時間を、5秒、9秒、11秒、13秒から選択します。

初期値：5秒

[サブアドレス識別子]

⊗ ボタンをアドレスとサブアドレスの区切り子として使用しないときは「ダイヤル」に設定します。

初期値：サブアドレス識別子

[システム共通]

システム共通の機能を設定するとき、クリックします。

[なりわけ番号]

なりわけ番号を設定するとき、クリックします。(☞P146)

[着信拒否番号]

着信拒否番号を設定するとき、クリックします。(☞P146)

[電話中継]

電話中継元の番号を設定するとき、クリックします。(☞P147)

[着信転送]

着信転送を設定するとき、クリックします。(☞P148)

初期値：使用しない

[マイプライベート着信]

マイプライベート着信番号を設定するとき、クリックします。(☞P149)

アナログポート共通の機能を設定するには

なりわけ番号を設定する（なりわけ番号設定画面）

システム共通登録画面で [なりわけ番号] をクリックすると表示されます。

●なりわけ番号
疑似なりわけ番号を登録します。

●なりわけとは？
特定の相手からの着信時に、通常と異なる着信音を鳴らします。
特定の相手の電話番号を入力してください。

なりわけ番号の登録の他に「なりわけたいアナログポートで「疑似なりわけ」の設定も必要です。

登録(S) キャンセル(Q) ヘルプ(H)

[0 ~ 9]

疑似なりわけ（←P54）を利用して通常の着信音と違う音で呼び出す相手の方の電話番号を登録します。10件まで登録できます。

相手の方の発信者番号が通知されない場合は通常の着信音が鳴ります。

着信拒否番号を設定する（着信拒否番号設定画面）

システム共通登録画面で [着信拒否番号] をクリックすると表示されます。

●着信拒否番号
電話に出たくない相手の電話番号を入力してください。
電話に出たくない相手からの着信時は、かかってきた相手に話中音が聞こえます。

登録(S) キャンセル(Q) ヘルプ(H)

[0 ~ 9]

着信を受けたくない電話番号を登録すると、登録した電話番号からの着信の際には着信を拒否することができます。（←P53）10件まで登録できます。

相手の方の発信者番号が通知されない場合は着信します。

電話中継の設定をする（電話中継の設定画面）

システム共通登録画面で [電話中継] をクリックすると表示されます。

[電話中継を行う]

電話中継を行うかどうかを設定します。

初期値：行わない

[0 ~ 9]

中継元の電話番号を入力します。

着信転送の設定をする（着信転送先番号の設定画面）

システム共通登録画面で [着信転送] をクリックすると表示されます。
ダイヤルインおよび i・ナンバーをご利用の場合は、3件まで登録できます。

[着信転送]

フレックスホンの着信転送を利用するか、疑似着信転送を利用するかを選択します。

初期値：使用しない

[着信転送元番号]

[着信転送元番号] をプルダウンして、転送する電話番号を選択します。プルダウンで表示される電話番号は共通アドレス設定で設定した番号です。

回線契約設定で i・ナンバー選択時は、i・ナンバー情報も表示されます。

初期値：設定なし

[着信転送先番号]

転送先の電話番号を入力します。

[転送トーキサービス]

転送トーキと転送元トーキを流すかどうかを選択します。

初期値：転送トーキあり、転送元トーキあり

マイプライベート着信の設定をする（マイプライベート着信の設定画面）

システム共通登録画面で「マイプライベート着信」をクリックすると表示されます。

	着信するポート	着信するポート			
		アナログ	RS-232C	無線	
0		☒	☒	☒	全て
1		☒	☒	☒	全て
2		☒	☒	☒	全て
3		☒	☒	☒	全て
4		☒	☒	☒	全て
5		☒	☒	☒	全て
6		☒	☒	☒	全て
7		☒	☒	☒	全て
8		☒	☒	☒	全て
9		☒	☒	☒	全て

[0 ~ 9]

マイプライベート着信（←P56）を利用するときの電話番号を登録します。

[着信するポート]

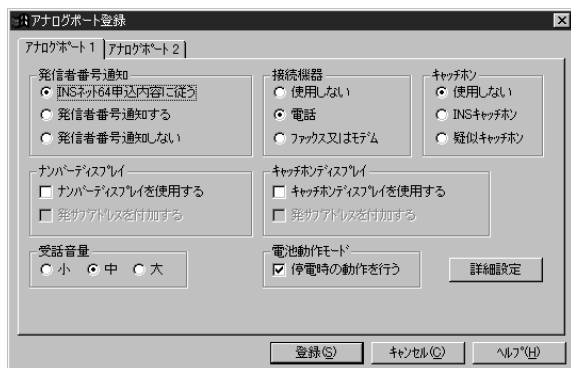
それぞれの番号に着信があったときに呼び出すポートを選択します。

初期値：アナログポート1 / 2着信する、RS-232Cポート着信する、無線ポート着信する

各アナログポート（TEL1 / TEL2）を設定するには

アナログポート登録画面

INSメイトFT50の詳細設定画面で[アナログポート登録]をクリックすると表示されます。TEL1ポートの登録を行うときは、[アナログポート1]を、TEL2ポートの登録を行うときは、[アナログポート2]をクリックします。ここでは、アナログポート1登録画面を例に説明します。



[発信者番号通知]

このポートからの発信時に発信者番号を通知するかどうかを選択します。

初期値：INSネット64申込内容に従う

[接続機器]

このアナログポートに接続する機器を設定します。接続しないときは、「使用しない」を選択してください。

初期値：電話

[キャッチホン]

疑似キャッチホンやフレックスホンのINSキャッチホンを利用するときに設定します。

初期値：使用しない

[ナンバーディスプレイを使用する]

ナンバー・ディスプレイを利用するかどうか選択します。

初期値：使用しない

[発サブアドレスを付加する]

ナンバー・ディスプレイを利用するとき、発サブアドレスを付けるか選択します。

初期値：付加しない

[キャッチホンディスプレイを使用する]

キャッチホン・ディスプレイを利用するかどうか選択します。

初期値：使用しない

[発サブアドレスを付加する]

キャッチホン・ディスプレイを利用するとき、発サブアドレスを付けるか選択します。

初期値：付加しない

[受話音量]

受話音量を設定します。

初期値：中

[停電時の動作を行う]

電池動作モード時発着信できるようにするときに選択します。

初期値：行う（アナログポート1）／行わない（アナログポート2）

[詳細設定]

アナログポートの詳細設定を行うとき、クリックします。

アナログポート詳細設定画面

アナログポート登録画面で [詳細設定] をクリックすると表示されます。ここではアナログポート1詳細設定画面を例に説明します。

[サブアドレス通知をする]

このポートからの発信時にサブアドレスを通知するかどうかを選択します。

初期値：通知をしない

[サブアドレス]

サブアドレス通知をする場合、通知するサブアドレスを入力します。

初期値：アナログポート1...1

アナログポート2...2

[モデムダイヤルイン]

モデムダイヤルインを使用するかどうかを選択します。

初期値：利用しない

[番号の送出方法]

モデムダイヤルインで着信する番号を設定するとき、クリックします。

[HLCの設定 (高位レイヤ整合性)]

高位レイヤ整合性を設定するかどうかを選択します。

初期値：HLCを設定しない

[フッキングタイマー]

フッキングタイマーを短い、普通、長いの中から選択します。

初期値：普 (普通)

[FAX無鳴動着信を行う]

ファクスの無鳴動着信を利用するかどうかを選択します。

初期値：行わない

[疑似なりわけを行う]

疑似なりわけを利用するかどうかを選択します。

初期値：行わない

[INSなりわけを行う]

INSなりわけサービスを利用するかどうかを選択します。

初期値：行わない

[リバースパルスを送出する]

リバースパルスの検出によって通話を終了する電話機を接続するとき、「送出する」に設定します。

初期値：送出する

[サブアドレス無し着信をする]

サブアドレスが指定されていない着信を受けるかどうかを選択します。

初期値：着信する



ワンポイント

- FAX無鳴動着信とは

着信したときにFネット信号（1300 Hz信号）を送出します。Fネット無鳴動受信に対応したファクスをご利用になると着信音を鳴らさずに自動でファクスを受信することができます。

電話がかかってきた場合も着信音は鳴りませんので、本機能を利用するときは、i・ナンバーやダイヤルインで追加番号を契約し、着信するポートを本機能を設定したポートのみに登録してファクス受信専用番号としてお使いください。



お知らせ

- サブアドレス通知をする設定にしても、発信者番号通知を通知する設定をしないとサブアドレスは通知しません。

各アナログポート（TEL1 / TEL2）を設定するには

アナログポート（番号の送出方法設定（i・ナンバーを使用しない場合）画面）

アナログポート詳細設定画面で「番号の送出方法」をクリックすると表示されます。ここでは、アナログポート1の設定画面を例に説明します。

「契約者回線番号」「ダイヤルイン番号1～7」

共通アドレスで登録した契約者回線番号、ダイヤルイン番号を表示します。

「変換後の番号」

モデムダイヤルインで使用する変換後の番号（最大4桁）を入力します。

アナログポート（番号の送出方法設定（i・ナンバーを使用する場合）画面）

アナログポート詳細設定画面で「番号の送出方法」をクリックすると表示されます。ここでは、アナログポート1の設定画面を例に説明します。

「i・ナンバー情報1～3」

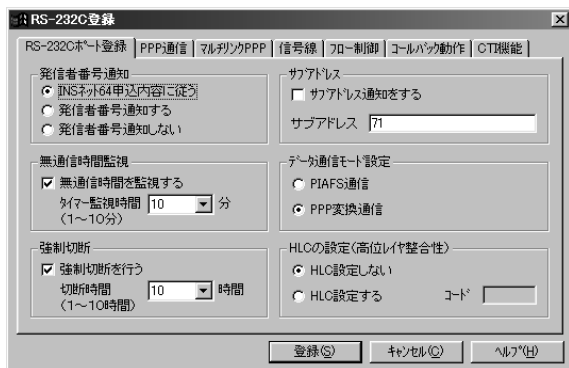
共通アドレスで登録したi・ナンバーの電話番号を表示します。

「変換後の番号」

モデムダイヤルインで使用する変換後の番号（最大4桁）を入力します。

RS-232Cポート登録画面

INSメイトFT50の詳細設定画面で[RS-232Cポート登録]をクリックすると表示されます。



[発信者番号通知設定]

RS-232Cポートからの発信時に発信者番号を通知するかどうかを選択します。

初期値：INSネット64申込内容に従う

[サブアドレス通知をする]

RS-232Cポートからの発信時にサブアドレスを通知するかどうかを選択します。

初期値：通知しない

[サブアドレス]

サブアドレスを通知する場合、通知するサブアドレスを入力します。

初期値：71

[無通信時間を監視する]

一定時間通信がなかったとき、自動的に切断するかどうかを選択します。「監視する」を選択したときは、[タイマー監視時間] (自動的に切断する時間) を分単位で入力します。

初期値：10分

[強制切断を行う]

一定時間経過したとき、自動的に切断するかどうかを選択します。「強制切断を行う」を選択したときは、切断時間を時間単位で入力します。

初期値：10時間

[データ通信モード設定]

RS-232CポートでPIAFS通信を行うか、PPP変換通信を行うかを選択します。

初期値：PPP変換通信

[HLCの設定 (高位レイヤ整合性)]

HLC高位レイヤ整合性を指定するときは「HLC設定する」を選択し「01」～「127」のコードを入力します。

初期値：HLC設定しない

(次ページへ続く)

[RS-232Cポート登録]

RS-232Cポートの機能を設定するとき、クリックします。

[PPP通信]

PPP通信の設定を行うとき、クリックします。(☞P157)

[マルチリンクPPP]

マルチリンクPPP通信の設定を行うとき、クリックします。(☞P158)

[信号線]

信号線の設定を行うとき、クリックします。(☞P159)

[フロー制御]

フロー制御の設定を行うとき、クリックします。(☞P160)

[コールバック動作]

コールバック動作の設定を行うとき、クリックします。(☞P161)

[CTI機能]

CTI機能の設定を行うとき、クリックします。(☞P162)

HLCコード表

コード	種別
01	電話
04	G2/G3ファクス
33	G4ファクス
36	ミックスモード
49	テレテックス
50	ビデオテックス
53	テレックス
56	メッセージ処理システム
65	OSIアプリケーション

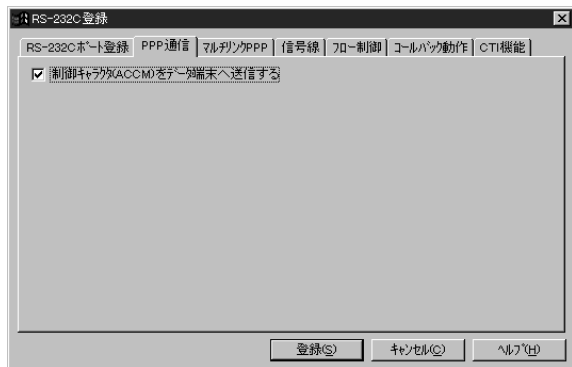


お知らせ

- 無通信監視タイマーを「監視する」に設定しても、インターネットサービスプロバイダによっては監視パケットなどを定期的に発信することがあり、自動的に切断されない場合があります。この場合は必ずパソコンから切断操作を行ってください。

PPP通信の設定をする（PPP通信の設定画面）

RS-232Cポート登録画面で [PPP通信] をクリックすると表示されます。



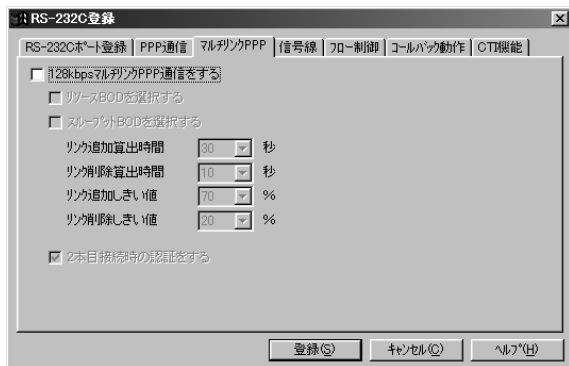
[制御キャラクタ（ACCM）をデータ端末へ送信する]

PPP通信時、データ端末へ制御キャラクタ（ACCM）を送信するかどうかを選択します。

初期値：制御キャラクタ（ACCM）をデータ端末へ送信する

マルチリンクPPP通信の設定をする（マルチリンクPPPの設定画面）

RS-232Cポート登録画面で [マルチリンクPPP] をクリックすると表示されます。



[128kbpsマルチリンク通信をする]

128 kbpsマルチリンク通信を行うかどうかを選択します。

初期値：128 kbpsマルチリンク通信を行わない

[リソースBODを選択する]

リソースBODを利用するときに設定します。

初期値：リソースBODを選択しない

[スループットBODを選択する]

スループットBODを利用するときに設定します。

初期値：スループットBODを選択しない

- ・リンク追加算出時間：スループットBODを利用するときのリンク追加算出時間を10～60秒の範囲を10秒単位で設定します。

初期値：30秒

- ・リンク削除算出時間：スループットBODを利用するときのリンク削除算出時間を10～60秒の範囲を10秒単位で設定します。

初期値：10秒

- ・リンク追加しきい値：スループットBODを利用するときのリンク追加しきい値を60～90 %の範囲を10 %単位で設定します。

初期値：70 %

- ・リンク削除しきい値：スループットBODを利用するときのリンク削除しきい値を10～40 %の範囲を10 %単位で設定します。

初期値：20 %

[2本目接続時の認証をする]

2本目のBチャンネルを接続するときの認証について設定します。

初期値：2本目接続時の認証をする

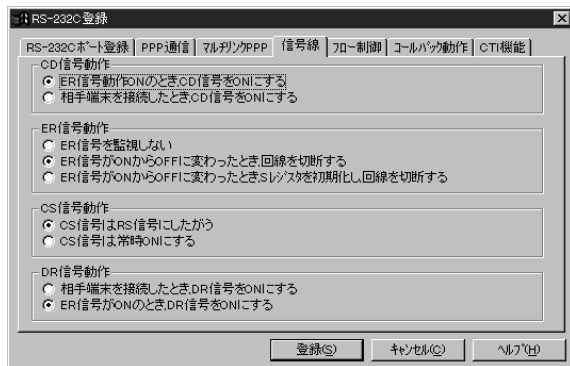


お知らせ

- ・128KマルチリンクPPPで接続時には非同期 / 同期PPP変換の倍の通信料金が必要になります。

信号線の設定をする（信号線の設定画面）

RS-232Cポート登録画面で [信号線] をクリックすると表示されます。



[CD信号動作]

CD信号（INSメイトFT50がデータ端末にデータ受信を要求する信号）について設定します。

初期値：ER信号動作ONのとき、CD信号をONにする

[ER信号動作]

ER信号（データ端末が動作準備できているかどうかをINSメイトFT50に知らせる信号）について設定します。

初期値：ER信号がONからOFFに変わったとき、回線を切断する

[CS信号動作]

CS信号（INSメイトFT50がデータ端末にデータ送信可を知らせる信号）について設定します。RS信号は、データ端末がINSメイトFT50に送るデータ送信を要求する信号です。

初期値：CS信号は、RS信号にしたがう

[DR信号動作]

DR信号（INSメイトFT50が動作準備できているかどうかをデータ端末に知らせる信号）について設定します。

初期値：ER信号がONのとき、DR信号をONにする

フロー制御の設定をする（フロー制御の設定画面）

RS-232Cポート登録画面で [フロー制御] をクリックすると表示されます。

**[フロー制御]**

フロー制御の方法を選択します。

初期値：RS / CSでフロー制御

コールバック動作の設定をする（コールバック動作の設定画面）

RS-232Cポート登録画面で「コールバック動作」をクリックすると表示されます。



〔コールバックする〕

コールバックをするかどうかを選択します。コールバックするときは、「着信ガードタイム」を設定します。

初期値：コールバックしない

〔着信ガードタイム〕

クライアント側ではコールバック発信後、他からの着信を一定時間受け付けないように設定できます。0～255秒の範囲で設定します。

初期値：30秒

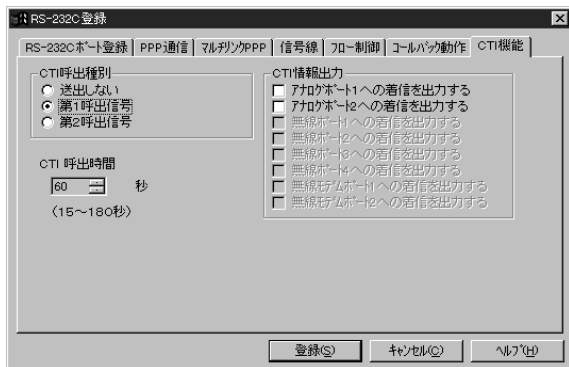
〔再発信あり〕

再発信するかどうかを選択します。

初期値：再発信しない

CTI機能の設定をする（CTI機能の設定画面）

RS-232Cポート設定画面で[CTI機能]をクリックすると表示されます。
設定したい項目のボタンをクリックします。



[CTI呼出種別]

RS-232CポートからのCTI発信時にアナログポートに接続された機器の着信音を鳴らすかどうか選択します。

初期値：第1呼出信号

[CTI呼出時間]

RS-232CポートからのCTI発信時にアナログポートに接続された機器のハンドセットを取り上げるまでの時間を15～180秒の範囲で指定します。

初期値：60秒

[CTI情報出力]

着信時にRS-232Cポートで着信情報を表示するか設定します。

着信情報を表示したいポートを選択します。

初期値：設定なし

無線ポート登録画面（無線ポートの設定画面）

INSメイトFT50の詳細設定画面で[無線ポート登録]をクリックします。



[発信者番号通知]

このポートからの発信時に発信者番号を通知するかどうかを選択します。

初期値：INSネット64申込内容に従う

[データ通信モード]

無線ポートでPIAFS通信（透過通信）を行い、INSメイトFT50で変換しない通信を行うか、PPP変換通信を行うかを選択します。

初期値：PPP変換通信

[キャッチホン]

疑似キャッチホンやフレックスホンのINSキャッチホンを利用するときに設定します。

初期値：使用しない

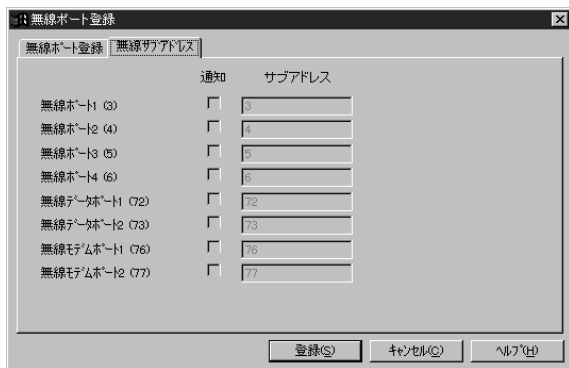


お知らせ

- PIAFS/同期PPP変換をご利用になる場合、下記の状態のときはご利用できません。
 - ・ INSメイトFT50に接続したパソコンで、PPP通信/MP通信中
 - ・ 他の無線ポートに接続したデータ通信機器がPIAFS/同期PPP変換で通信中
 またPIAFS/同期PPP変換で通信中は、INSメイトFT50に接続したパソコンからPPP通信/MP通信はご利用できません。
- 通信圏外の場合は
通信圏外が表示されたときはINSメイトFT50に近づいてください。
(お使いの機器により通信圏外表示は異なります。)
- PIAFS64kモードのときは、発信者番号通知を行うようにしてください。

無線サブアドレスを設定する（無線サブアドレス設定画面）

INSメイトFT50の詳細設定画面で[無線ポート登録]をクリックし、[無線サブアドレス]をクリックします。



[通知]

無線ポートからの発信時にサブアドレスを通知するかどうか選択します。

[サブアドレス]

サブアドレスを通知する場合、通知するサブアドレスを入力します。

初期値：無線ポート3...3

無線ポート4...4

無線ポート5...5

無線ポート6...6

無線データポート1...72

無線データポート2...73

無線モデムポート1...76

無線モデムポート2...77

各種情報を表示するには (各種情報表示画面)

累積料金を表示する(累積料金の表示画面)

メインメニューで[通話料金、着信履歴表示]をクリックすると表示されます。
各ポートの通信料金の累積が表示されます。

[累積料金]

各ポートの通信料金の累積を表示するとき、クリックします。

[着信履歴]

着信履歴を表示するとき、クリックします。(P164)



ワンポイント

- 累積料金情報をクリアするには
[クリア]をクリックすると、累積料金情報がクリアされ、「0円」と表示されます。



お知らせ

- 料金は、通信終了時にINSネット64から通知される料金情報を利用して表示されます。おかけになった相手先によっては、INSネット64から料金情報が通知されない場合があります。
- 料金は目安ですので、請求書の額と一致しないことがあります。また、1円未満は切り捨てられます。
- 画面に表示される料金の最大表示額は、9,999,999円です。

着信履歴を表示する（着信履歴の表示画面）

各種情報表示画面で「着信履歴」をクリックすると表示されます。

着信履歴（電話番号や非通知理由、着信日時、着信内線番号など）が表示されます。

**[着信番号]**

相手の方の電話番号や、非通知の理由を表示します。

[着信時刻]

着信した日時を表示します。

[応答TEL番号]

着信に応答した機器の内線番号を表示します。

応答しなかったときは00と表示します。

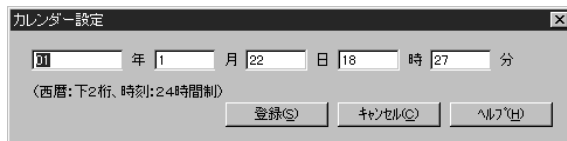


ワンポイント

- 着信履歴情報をクリアするには
[クリア(C)]をクリックすると、着信履歴情報がクリアされます。

日付・時刻設定画面

INSメイトFT50の詳細設定画面で [カレンダー設定] をクリックすると表示されます。



Calendar Setting dialog box showing date and time selection. The date is set to 2011年1月22日 (January 22, 2011) and the time is 18時27分 (18:27). The time zone is set to (西暦: 下2桁、時刻: 24時間制) (Western Calendar: Last 2 digits, Time: 24-hour format). Buttons for 登録 (Register), キャンセル (Cancel), and ヘルプ (Help) are at the bottom.

[カレンダー設定]

年：西暦下2桁を入力します。

月、日：1桁の場合は、0も入力します。

時、分：24時間制で入力します。1桁の場合は、0も入力します。

初期値：パソコンに登録されている日付と時刻

タイマー機能設定画面

FT50の詳細設定画面で [タイマー機能] をクリックすると表示されます。



Timer Setting dialog box showing timer configuration. It includes tabs for タイマー1, タイマー2, and タイマー3. The first timer is selected. Options include 開始時刻 (Start Time), 終了時刻 (End Time), 着信転送 (Call Forwarding), 優先着信 (Priority Call), 電話中継 (Call Transfer), 128kbpsマルチリンクPPP通信 (128kbps Multi-link PPP Communication), 強制切所 (Forced Disconnection), and コールバック (Callback). Buttons for 登録 (Register), キャンセル (Cancel), and ヘルプ (Help) are at the bottom.

[開始時刻]

タイマーを開始する時刻を入力します。

[終了時刻]

タイマーを終了する時刻を入力します。

[着信転送]

着信転送でタイマー機能を利用するときにクリックします。

[着信転送先設定]

着信転送先を設定するときにクリックします。

(次ページへ続く)

[128kbpsマルチリンクPPP通信]

128 kbpsマルチリンク通信でタイマー機能を利用するときにクリックします。

[無通信監視]

無通信監視でタイマー機能を利用するときにクリックします。

[コールバック]

コールバックでタイマー機能を利用するときにクリックします。

[強制切断]

強制切断でタイマー機能を利用するときにクリックします。

[RS-232C設定]

128 kbpsマルチリンク通信、コールバック、無通信監視、強制切断のタイマー機能を設定するときにクリックします。

[優先着信]

優先着信でタイマー機能を利用するときにクリックします。

[発信・着信規制]

発信・着信規制でタイマー機能を利用するときにクリックします。

[電話機設定]

優先着信、発信・着信規制のタイマー機能を設定するときにクリックします。

[電話中継]

電話中継でタイマー機能を利用するときにクリックします。

[電話中継を行う]

電話中継を行うときにクリックします。

[電話中継元設定]

電話中継元を設定するときにクリックします。

着信転送設定画面

タイマー機能設定画面で [着信転送先設定] をクリックすると表示されます。

[着信転送]

フレックスホンの着信転送を利用するか、疑似着信転送を利用するかを選択します。

初期値：着信転送を使用しない

[着信転送元番号]

[着信転送元番号] をプルダウンして、転送する電話番号を選択します。プルダウンで表示される電話番号は共通アドレス設定で設定した番号です。

回線契約設定で i・ナンバー選択時は、i・ナンバー情報も表示されます。

初期値：設定なし

[着信転送先番号]

転送先の電話番号を入力します。

[転送トキサービス]

転送トキと転送元トキを流すかどうかを選択します。

初期値：転送トキあり、転送元トキあり

電話中継設定画面

タイマー機能設定画面で [電話中継設定] をクリックすると表示されます。

[0 ~ 9]

中継元の電話番号を入力します。

電話機設定画面

タイマー機能設定画面で [電話機設定] をクリックすると表示されます。

[優先着信設定]

タイマー機能で優先着信するポートを選択します。

[発信・着信規制 (TEL 1)] [発信・着信規制 (TEL 2)]

タイマー機能で発信・着信規制を行うかどうかを選択します。

RS-232C設定画面

タイマー機能設定画面で [RS-232C設定] をクリックすると表示されます。



[128kbpsマルチリンクPPP通信をする]

128 kbpsマルチリンク通信を行うかどうかを選択します。

初期値：128 kbpsマルチリンク通信を行わない

[リソースBODを選択する]

リソースBODを利用するときに設定します。

初期値：リソースBODを選択しない

[スループットBODを選択する]

スループットBODを利用するときに設定します。

初期値：スループットBODを選択しない

- ・リンク追加算出時間：スループットBODを利用するときのリンク追加算出時間を10～60秒の範囲を10秒単位で設定します。

初期値：30秒

- ・リンク削除算出時間：スループットBODを利用するときのリンク削除算出時間を10～60秒の範囲を10秒単位で設定します。

初期値：10秒

- ・リンク追加しきい値：スループットBODを利用するときのリンク追加しきい値を60～90 %の範囲を10 %単位で設定します。

初期値：70 %

- ・リンク削除しきい値：スループットBODを利用するときのリンク削除しきい値を10～40 %の範囲を10 %単位で設定します。

初期値：20 %

[2本目接続時の認証を行う]

128 kbpsマルチリンク通信で2本目を接続したときの認証をするときにクリックします。

[コールバックする]

コールバックをするかどうかを選択します。コールバックするときは、「着信ガードタイム」を設定します。

初期値：コールバックしない

(次ページへ続く)

[着信ガードタイム]

クライアント側ではコールバック発信後、他からの着信を一定時間受け付けないように設定できます。0 ~ 255秒の範囲で設定します。

初期値：30秒

[再発信あり]

再発信するかどうかを選択します。

初期値：再発信しない

[無通信時間を監視する]

一定時間通信がなかったとき、自動的に切断するかどうかを選択します。「監視する」を選択したときは、[タイマー監視時間] (自動的に切断する時間) を分単位で入力します。

初期値：10分

[強制切断を行う]

一定時間経過したとき、自動的に切断するかどうかを選択します。「強制切断を行う」を選択したときは、切断時間を時間単位で入力します。

初期値：10時間

設定値の保存・復元・印刷

INSメイトFT50の設定値の保存、復元、印刷を行います。

メインメニューの [設定値の保存・復元・印刷] をクリックするとINSメイトFT50の現在の設定値が表示されます。



[開く]

[開く] をクリックし、INSメイトFT50の設定値を保存したファイルを読み出し [登録] をクリックすると、読み出した設定値をINSメイトFT50に書き込みます。クリックするとファイルを開く画面が表示されるので、ファイルを選択して [開く] をクリックします。

[保存]

INSメイトFT50の現在の設定値をファイルに保存します。クリックするとファイルを保存する画面が表示されるので、ファイル名を入力して [保存] をクリックします。

[印刷]

設定記入シートに表示されている設定値を印刷します。

ATコマンドWindow

メインメニュー画面で [ATコマンドWindow] をクリックすると、ATコマンドの入力用ウィンドウが表示されます。



ATコマンドについては、INSメイトFT50ワイヤレスセットRU専用CD-ROMの「参考情報」(PDFファイル)をご覧ください。



ワンポイント

- ATコマンドWindowでデータ通信を行うことはできません。

バージョンを確認する（メインメニュー）

メインメニュー画面の最下段に製品情報、バージョン情報が表示されます。



上段に製品名称、メーカー名、INSメイトFT50のバージョンが表示されます。

下段に設定ユーティリティのバージョンが表示されます。



ワンポイント

- ATコマンドでバージョンを確認することもできます。

ATI3

ATコマンドについては、INSメイトFT50ワイヤレスセットRU専用CD-ROMの「参考情報」(PDFファイル)をご覧ください。



お知らせ

- NTT通信機器商品のご案内ホームページにアップロードされているファームウェアが、お使いのINSメイトFT50のバージョンより新しい(バージョンの数値が大きい)場合のみバージョンアップを行ってください。

INSメイトFT50のバージョンアップを行うには

INSメイトFT50はファームウェアのバージョンアップを行うことができます。
バージョンアップソフトウェアは、NTT通信機器商品のご案内ホームページにアップロードしていく予定です(<http://www.ntt-east.co.jp/ced/>、<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>)。
バージョンアップの操作手順を以下に説明します。
ダウンロードの方法は、NTT通信機器商品のご案内ホームページを参照してください。

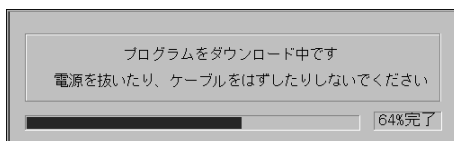
バージョンアップを行う

1 ダウンロードし保存しておいたファイルを実行する。

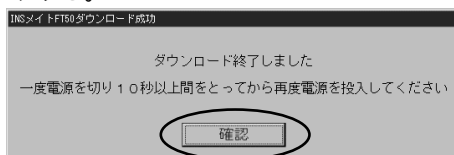
2 [はい(Y)] をクリックする。



3 バージョンアップが終了すると次の画面が表示される。



4 [確認] をクリックする。



5 一度電源を切り10秒以上の間をあけてから再度電源を入れ直す。



ワンポイント

- バージョンアップにかかる時間はINSメイトFT50とパソコン間の通信速度やお使いになるパソコンの能力にもよりますが、およそ5分から15分で終了します。
- ファームウェアとはINSメイトFT50に内蔵されているフラッシュメモリーに書き込まれるソフトウェアのことです。新しいバージョンのファームウェアをINSメイトFT50に書き込むことにより、新しい機能を利用することができます。



お知らせ

- バージョンアップに失敗したときは、「バージョンアップ失敗」の画面を表示して終了します。その場合は、電源を切り再度電源を立ち上げて手順1からやり直してください。バージョンアップを正常に終了させないと、INSメイトFT50が動作できなくなります。バージョンアップを実行したときでも、バージョンアップ前のINSメイトFT50の設定は保存されます。

INSメイトFT50の設定をお買い求め時の設定に戻すことができます。次の方法で設定値を初期値（お買い求め時の設定値）に戻すことができます。

- 設定ユーティリティ（すべて）
- ATコマンド（すべて、Sレジスタ）
- アナログポート（すべて）
- 初期化スイッチ（すべて）

ここでは設定ユーティリティからの初期化を説明します。

初期化画面

INSメイトFT50詳細設定画面で「初期化」をクリックすると表示されます。



[OK] をクリックします。

すべての設定値が初期値（お買い求め時の設定値）に戻ります。



ワンポイント

- 初期化スイッチで設定を初期化するにはINSメイトFT50の左側面にある、初期化スイッチ（P29）を細い棒などで3秒以上押し続けてください。初期化されると自己診断が始まります。その際に金属製の物などは絶対に使わないようにしてください。感電・故障の原因となることがあります。



お知らせ

- 初期化を行うと、設定ユーティリティ、ATコマンド、電話機からの設定で、INSメイトFT50に設定した内容はすべて無効になり、お買い求め時の内容に戻ります。

